佳作

弟が生まれて感じたこと

兵庫県　姫路市立高浜小学校三年　大井　琴葉

二年生の時「いのちのじゅぎょう」をうけました。人の「いのち」は、いちばんはじめは目にみえないほど小さいそうです。そのとき、お母さんのおなかに赤ちゃんがいました。こんなにちいさい「いのち」が、だんだん大きくなって、人間の形になっていくと聞いて、とてもふしぎな気持ちになったことをおぼえています。そして、どんな「いのち」も大切で、とうといものなんだ、ということを教えてくれました。

きょねん、弟がたんじょうし、わたしの家族が一人ふえました。わたしと八才はなれた弟は、とても小さくて、ふわふわで、はじめて会ったときは今までで一番感動しました。弟をはじめてだっこしたときは、小さいのにおもたく感じました。足を力いっぱい動かしているすがたに、かわいくてむねがいっぱいになりました。赤ちゃんの名前も、どうしてもわたしがすきな名前にしたくて、わたしが決めました。

わたしが一番うれしかったことは、わたしの顔を見てわらってくれたところです。わたしが学校から帰ると、手と足をバタバタさせて、よろこんでくれました。弟と遊びたくて、しゅく題も後回しになります。「赤ちゃんはなくのが仕事」とお父さんに言われても、ないていたら気になるし、くしゃみをすると「さむいのかな」としんぱいになります。でも、わらってくれると家族全いんがえがおになります。わたしも赤ちゃんのころ、こんな大切にされて、あいじょうをそそいでもらったんだな、と思ってうれしくなりました。二年生の三学きに、生活で「せいちょうアルバム」を作りました。生まれたときの名前のゆらいを聞いたり、小さいときのしゃしんをはりました。お父さん、お母さんからの手紙ももらいました。自分が大切にそだてられていることが分かって、「せいちょうアルバム」はわたしのたからものです。

わたしが生まれたしゅんかんの動画を見たことがあります。生まれたしゅんかん、お父さんはわらっていて、お母さんはないていました。とても大切にだっこされていました。わたしはわたしだけの「いのち」ではなくて、みんなに大切にしてもらっている「いのち」です。これから、弟とけんかをすることもあると思います。妹やりょう親と言い合いになることもあります。でも、自分を大切にしてくれている家族と自分を大切にしたいです。

弟の手にわたしの指をのせると、ぎゅっとにぎってくれます。小さくて、温かくてしあわせな気持ちになります。弟が生まれて、「いのち」の大切さをより強く感じることができました。家族とごはんを食べて、学校で友だちといっしょに遊んで、弟をだっこできる。当たり前だけど、「いのち」があるからこそとてもしあわせな毎日を、これからも大切にしていきたいと思います。